

市町村名	11南城市
------	-------

沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】

事業名	デジタルのまちづくり推進事業				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章 - 3 - (2) - エ デジタル社会を支える情報通信関連産業 の高度化・高付加価値化	
担当部課名	企画部	DX推進課	事業実施 年度	令和 4	～ 令和 4	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-6
事業内容	デジタル技術を活用した観光、公共交通、産業、教育などさまざまな分野間の目指す方向性や施策を整理したデジタル田園都市 構想を策定し、本市のデジタル化のまちづくりを推進することで市民の利便性の向上、観光客誘客に繋げる。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中 の予算額 ・執行額 【単位:千円】		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	
	A. 予算現額	28,600				28,600	
	B. 執行済額	28,600				28,600	
	うち 交付金充当額	22,880				22,880	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	
	執行状況の説明	令和4年度のデジタル田園都市構想策定を目指したが、地域事業者、団体との聞き取り調査の日程調整に不 測の日数を要したため、翌年度へ繰り越して事業を実施した。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	デジタル田園都市構想の策定	目 標	策定完了				
		実 績	策定完了				
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	デジタル田園都市構想に、地域課題解決に係 るいずれかの取組を盛り込む。	目 標	計画策定				
		実 績	完了				
	【R6成果目標】 デジタル田園都市構想(仮称)に記載した事業 の実施:1事業	目 標			1事業		
		実 績			2事業		
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度 目標/発現年度
	デジタル田園都市構想に記載した事業の実施		目 標	1事業				
			実 績	2事業				
			目 標					
			実 績					
	状況説明	【R6年度】 ・構想策定初年度は、各分野における先端技術の情報収集及び庁内体制の強化、担当課との調整等に力を入れる。 ・2事業実施した。						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)					
【R6年度】 ・デジタル田園都市構想に掲げるデジタル施策「第一次産業現場において有効な環境センサーの導入」に向け、圃場環境モニタリングシステム導入事業を実施した。また、新たなモビリティ導入検討にむけた実証に取り組んだ。			【R6年度】 ・観光、公共交通、産業、教育等各産業のデジタル化に取り組むには、担当課との連携や伴走支援が欠かせないが不十分だった。DX推進委員会を中心に職員への周知啓蒙に取り組む必要がある。					
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R6年度】 ・DX推進委員会等でDXの必要性やデジタル実装タイプの交付金を活用した全国の事例等を紹介し、計画実現に向け取り組む。								

市町村名	11南城市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	電子黒板等学校ICT機器機能強化整備事業				新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－5－(3)－イ Society5.0に対応する教育の推進	
担当部課名	教育部	教育指導課	事業実施年度	令和4年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)	
事業内容	今後のSociety5.0時代に備え求められる文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力。価値を見つけ生み出す感性、好奇心・探求力など「生きる力」を育成するため、小中学校のICT教育に対応した環境整備に取り組むことで、児童・生徒の興味・関心を高め国際化・情報化に対応した人材の育成を図る。 市内各小中学校へ電子黒板を整備し、タブレットPC端末等のICT機器との連携による個別最適な学びの実現を図る。						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	
	A. 予算現額	139,480	85,085			224,565	
	B. 執行済額	137,126	85,085			222,211	
	うち 交付金充当額	109,700	68,068			177,768	
	執行率(%) (B/A)	98.3%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	99.0%	
	執行状況の説明	予定通り、予算を執行することが出来た。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	南城市立各小中学校における電子黒板整備	目標	143台	76台			
		実績	143台	88台			
		目標					
		実績					
		目標					
		実績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かり易かったと答えた割合が85%以上	目標	85.00%	85.00%			
		実績		96.44%			
		目標					
		実績					
		目標					
		実績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度 目標/発現年度
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かり易かったと答えた割合が85%以上		目 標	85.00%	85.00%			
			実 績	96.44%	98.00%			
			目 標					
実 績								
状況説明		【R5年度】 ・ディスプレイ式電子黒板を整備したことにより視覚的に分かりやすく児童生徒が使うタブレット端末の画面をワイヤレスにより簡易的に投影することで、互いの考えを深める等、興味関心が高まる場面が見られるようになっているものの新しい機器の操作に苦慮されている状況も見られる。 【R6年度】 ・昨年度の実績に加え、教員が新しい機器の操作に慣れてきたことにより、活用頻度を増やし、児童生徒の授業理解度を高めることに取り組めた。						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)					
【R5年度】 ・電子黒板は様々な機能を有しており、操作方法など、扱う教員の知識や技能の差が生じており、授業の質を確保する必要がある。 【R6年度】 ・ICT支援員の派遣により電子黒板の活用シーンが増えたことで、児童生徒が主体的に授業に取り組む場面が伺える一方で、教員によって活用頻度に差がある状況も見受けられる。			【R5年度】 ・授業の質を確保するためにICT支援員を派遣し、教員の知識や技能に合わせた支援体制を強化する必要がある。 【R6年度】 ・教員による活用頻度の差を減らし、児童生徒に均質な授業を展開できるよう取り組みが必要である。					
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R5年度】 ・電子黒板の様々な機能を効果的に活用して頂くため、ICT支援員による研修会や事例紹介など、活用促進を図る。 【R6年度】 ・ICT支援員による研修会や事例紹介だけでなく、教員間で電子黒板を活用した授業等の情報共有の場を設けることで、活用促進を図る。								

市町村名	南城市							
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】								
事業名	南城市エコリサイクル推進事業				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章 - 1 - (1) - イ 社会生活における資源循環の推進		
担当部課名	企画部	観光商工課	事業実施 年度	令和 5	～ 令和 5 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-10-(1)		
事業内容	刈草や伐採樹木等の資源化(チップ化)に係る資機材を整備し、ゴミ減量化、3R推進に繋げ、自然環境の保全を図る。							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()							
事業期間中 の予算額 ・執行額 【単位:千円】		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	合計		
	A. 予算現額	18,650,000				18,650,000		
	B. 執行済額	18,198,000				18,198,000		
	うち 交付金充当額	14,558,000				14,558,000		
	執行率(%) (B/A)	97.6%				97.6%		
	執行状況の説明	計画通りに執行できた。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	・資機材購入実施		目 標	実施				
			実 績	完了				
			目 標					
			実 績					
			目 標					
			実 績					
	事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
					R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
・資機材購入完了		目 標	完了					
		実 績	完了					
		目 標						
		実 績						
		目 標						
		実 績						

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況				
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度 目標/発現年度
	・草木の処分量	目 標	2,990t以上/年				
		実 績	2,159t				
	・堆肥生産量	目 標	10,152袋/年				
		実 績	9,787袋				
	状況説明	【令和6年度】 ・草木の処分量は2,159tとなっており、目標を下まわっている。 ・たい肥生産量は9,787袋となっており、目標を若干下まわっている。					
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【令和6年度】 ・草木の処分量が目標を下まわっていることについて、受入予定の草木に、特定外来生物やゴミ等が混在したため、産業廃棄物として処理した結果として受け入れ量が目標より少なくなった。 ・たい肥生産量が目標を下まわっていることについて、上記に付随して資源となる草木の受入が目標を下回ったため、結果としてたい肥の生産量も目標より少なくなった。			【令和6年度】 ・草木の受け入れ、再資源化の必要性の周知広報を強化する必要がある。 ・草木を受け入れる際の分別等の注意事項を徹底する必要がある。				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
【令和6年度】 ・本施設における刈草や伐木の受け入れの周知、再資源化の必要性を市広報誌やHP、SNS等を活用してさらなる周知を図る。							